

# 工 だより



（一）年一組 名前

## 第19号

府中市立  
府中第七小学校  
図画工作科  
令和3年  
3月19日発行  
伊藤 志帆

### 国立でアートにふれよう

三月二十日(土)～四月四日(日)に国立駅近辺と谷保駅近辺のギャラリーやお店で、アートイベントが開催されます。多くの作家が参加しますが、おすすめの作家を一人紹介します。角文平さんという作家です。下の写真のように色々なものから芽や枝が生えた作品を作られています。大学通りの福祉センター前交差点近くのこいずみ道具店ショーウィンドーでご覧になれます。



### 映像表現について

今月ついに「シン・エヴァン

ゲリオン劇場版」が公開されました。本作品では、「プリビズ」という手法が使われています。映像作品は主要となるシーンだけで描かれた絵コンテをもとに作られますが、プリビズはそれをCG映像でつくりまします。おかげで早い段階から監督の完成イメージを

スタッフで共有することができ、作り直しが減ること、コストも削減することができました。



何ができるか、造形あそびをしました。暖簾のように新聞紙を垂らしたり長くつなげた新聞紙で迷路のようにしたりしました。

### 一年生

「ひらひらゆ

れて」では、木の枝に自分でいいなと思った色や長さのすずらんテープを結び付け、揺れる様子を見て楽しみました。校庭に映るテープの影の色の変化を楽しむ子もいました。

最後の図工では、新聞



紙を短冊状に裂いたものを、視聴覚室の壁や、窓の格子に渡したロープに貼り付け、



### 三年生 四十種類の作

品が印刷されたアート・カードを使って、「図工かるた」を楽しみました。「楽しい」「悲しい」などのお

題を自分たちで考え、これだと思ふカードをとるかるたです。とつたら理由を言います。楽しみながら取り組めるか心配でしたが、みんな活発に自分の考えを話していました。

ふりかえりでは「一枚に付き何個もの見方があることを知りました。」や「作品をつくった人の気持ちが分かった。違う作品でも、意味が同じものがあつた。」な



どの意見があり、とてもよい気持ちをしていることが分かりました。四年生になつても、とても楽しみです。

### 六年生

「ぼく・わたしが未来をつくる」が

完成しました。最後の図工となったので、一人一分作品について発表する時間をとりました。これまで発表形式をおこなったことがなかったので、どうなるか心配でしたが、全員自分の言葉で落ち着いて発表することができました。ふだんの自由に作品を鑑賞する活動もよいですが、発表することで全員の考えをみんなで共有することができて、よかつたと思います。ふりかえりでは、「物を本来と違う使い方をする面白さを知りました。」や「みんなの考えた店が本当であれば、いい町になる。」



**四年生** 前回の図工だよりで紹介し切れなかつた「つつんだアート」の活動を紹介します。

上の写真は、北校舎の

画用紙で包んでいます。何が描かれているか分からなくなり、不思議な感じが表現されました。左の写真は、昇降口の掃除用のごみ箱を、

白いシートで包んでいる様子です。「ごみ箱なのに清潔な感じがする。」という感想が、子供からありました。



図工は絵を描いたり工

作をしたりするだけでなく場所を使った表現もあります。これからいろいろな挑戦したいです。



### 五年生

「彫って発



見すつて発見」では、四年生の時の彫刻刀と木版画の経験

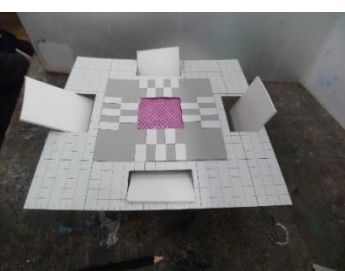


を生かして、新しい表現方法を見付ける活動をしました。同じ形に彫つた版木を重ねて刷る時にずらしたり、回転させたり、たくさん刷つたり、いろいろな種類の色を使つたり、様々な方法を試しました。振り返りでは、「どんな工夫をしたら分かりやすく表現できるか、おもしろいかを、色使いを使つてできるようにした。」「ペタンと写してみた時、木の温かい感じがよかつた。」「彫つたものに合う色選んでやると、よくなるのがわかつた。」などの気付きがあり、子供たちがよく考えながら活動していたことが分かり、感心しました。

刷っているときによれた手もなんだかきれい



「この作品づくりが未来につながり、みんなが安全に楽しく過せる未来ができるといい。」という感想がありました。



「この作品づくりが未来につながり、みんなが安全に楽しく過せる未来ができるといい。」という感想がありました。